

新聞新報

2005年(平成17年)8月17日 水曜日

新幹線復旧12時間後

宮城地震 天井崩落設計ミスか

宮城県沖を震源として16日午前1時に起きた最大震度6弱の地震で、けが人は東北6県と埼玉、東京の8都県で重傷5人、軽傷54人の計59人にのぼった。東北(山

形・秋田)新幹線は、上り61本、下り55本の計116本が運休するなど大幅に乱れ、お盆休みを終えた帰省客や行楽客ら約10万3000人に影響が出た。

同新幹線では地震直後、走行中の列車14本が停止し、うち4本は6〜8時間にわたり、乗客を乗せたまま線路上で立ち往生した。JR東日本では、地震で切れた架線を修復するなどしたが、列車の運行をつかさどるコンピューター「新幹線総合システム(コスモ

ス)」がダウンするトラブルも重なり、東京―仙台間の上下線が復旧したのは、地震発生から約10時間後の午後10時前。17日午前0時15分になって、ようやく全線で復旧した。

宮城県内の重軽傷者は40人にのぼり、天井パネルが落下した仙台市泉区の市営施設「スポパーク松森」のプールでは26人が軽傷を負った。ほぼ全部のパネルが崩落しており、国土交通省は同日、「設計上の問題があった可能性がある」として、専門家4人を調査のため現場に派遣した。

宮城県内の重軽傷者は40人にのぼり、天井パネルが落下した仙台市泉区の市営施設「スポパーク松森」のプールでは26人が軽傷を負った。ほぼ全部のパネルが崩落しており、国土交通省は同日、「設計上の問題があった可能性がある」として、専門家4人を調査のため現場に派遣した。

気象庁によると、余震活動は比較的低調に推移して

おり、16日午後1時まで、体に感じる余震は計10回。気象庁の関田康雄・地震情報企画官は、「地震の規模がマグニチュード(M)7・2と大きかったため、数日間最大でM6級の余震が起こる恐れがある」と警戒を呼びかけている。

〈関連記事2・3・8・30・31面〉



地震の影響で大幅に遅れて到着した新幹線から疲れた表情で降りる乗客たち(17日午前1時4分、JR東京駅で)